

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2019.11.No267

11月号

目次

特集 建築士の日事業 厚真町へのバス視察報告	1
新入会員紹介	3
技術ノート	4
青年・女性の窓 〔青年委員会〕	6
Coffee Break	7
information	8

URL <http://www.h-ab.com/>

特集 建築士の日事業

厚真町へのバス視察報告

石狩支部 笠間友美

〔石狩支部長 佐藤壽治より〕

今年の視察旅行を何処にしようか考えましたが、昨年、胆振東部地震の被害にあった厚真の友人の事が気になり、2019年1月6日に友人に思いきって連絡を取り、厚真の被害状況、友人の隣人が被害で亡くなった事、友人自身も家が壊れ住めなくなり街中に新しい家を建てるしかなくなった事、仕事では農家として生業としてきた畑が被害を受け、復旧出来ずに苦勞しているなどの話を聞きました。この話を聞き、石狩支部の私達が協力出来る事はないか考え、厚真町内での昼食、特産品購入など微力ながら協力したいと思い、厚真の友人に視察に行きたい旨を伝え、案内をしてくれる事を快く承諾してもらい、厚真への視察へと行く運びとなりました。

〔北海道胆振東部地震〕

- ・発生日 2018年9月6日
- ・発生時刻 3時7分59.3秒
- ・持続時間 10秒
- ・地震の深さ 37km
- ・規模 マグニチュード 6.7
- ・最大震度 震度7：厚真町鹿沼
- ・震度 6強 厚真町京町 安平町早来北進
安平町追分柏が丘 むかわ町松風
むかわ町穂別

〔土砂崩れ〕

厚真町を中心に広い範囲で土砂崩れが発生。崩壊面積は13.4平方キロメートル。土砂崩れのすべり、面は降下軽石層が関係しているとも指摘されている。また、前日の台風や6-8月の降雨水量が平年の1.6倍と多かったことも一気に表層崩壊したと考えられている。

このように「北海道胆振東部地震」は北海道各地に被害を及ぼしましたが、特に厚真地区は被害が大きかったです。

2019年6月25日(火) 午前11時にバスで石狩市を出発して厚真へと向かいました。今回は石狩支部のメンバーと途中、北広島支部の関川さん夫妻も合流して25人での視察となりました。厚真町に到着し、先に紹介した石狩支部の佐藤支部長の友人の、日西善博様(横路孝弘 北海道知事時代の一村一品運動の厚真町の地域リーダーで、支部長とは一緒に福島県を視察した仲間です)と合流して先に「厚真園」でジンギスカンの昼食を取りました。



(厚真園 ジンギスカン 柔らかく美味しいです)

昼食後は、日西さんの他に、苫小牧支部の西尾さん(厚真地区在住)がバスに乗り、厚真地区の被災地を案内してくれました。



(富里浄水場の前でバスツアーメンバー)

厚真地区をバスで移動して被害にあった場所を視察しましたが、各道路が復旧工事の車両優先で、バス移動が難しく、視察できる場所は限られていました。先程の写真の富里浄水場は86億円を投じて建設され、8月に稼働した直後の地震で、裏山が崩落し崩壊的な被害を受けましたが復旧は2020年にずれ込む見込みとの事です。

西尾さんの説明によると、厚真町は昔から洪水の多い地域で、洪水を回避する為に山岸に沿って家が建てられた地域で、その為に今回、地震で山が崩れ、山沿いの建物が被害を受ける事となったそうです。厚真地区の人口は4500人～4600人でそのうち家が流され、亡くなった人は41名との事でした。被害のあった山岸のあたりをバスで移動しましたが、バスの窓から見える景色は山の木も抜けてしまい、緑は無く、ただ茶色の斜面が見えるばかりで、見ていて悲しくなる景色でした。斜面では沢山の重機が動いていましたが、それでも被害の面積の大きさを考えるともっと沢山の人手がなければ復旧のスピードは上がって行かないだろうと感じました。

その後厚真町の仮設住宅を視察に行きました、厚真町の家屋は1826世帯で被害のない家屋が200世帯という事で、ほとんどの家が被害にあったそうです、仮設住宅には126世帯、284名。仮屋や公営住宅には181世帯400名が仮住まいをしているとの事でした。



(厚真町 仮設住宅)

仮設住宅の中も見させていただきましたが、部屋の大きさは、家族構成によって変わるそうで、見せていただいた部屋は3人家族で3DKの間取りで、玄関から入ってすぐにキッチンがあり、その他に居間と寝室が2つあります。もちろん元々住んでいた家よりは狭く、住みにくいのでしょうかが私個人の感想では、このくらいのスペースとお風呂や台所があるなら、なんとか暮らせるのかな？という思いでした。ただ冬の寒さや夏の暑さがどのくらいしのげるのかは心配でした。

この後、厚真町の特産品を購入する為に、厚真町の「こぶしの湯あつま」のお土産コーナーに立ち寄りました。



(こぶしの湯あつまと特産品)

お土産での一番人気は「あつまジンギスカン」でお土産コーナーにあったお肉は、私達メンバーの中で奪い合って、すぐに売り切れてしまい、購入できないメンバーも居ました、他に厚真特産品のハスカップや、ハスカップを使ったケーキやチョコレートなど皆で沢山の土産を購入して楽しい買い物の時間となりました。



厚真町はハスカップ日本一の栽培面積を誇り、近年菓子などの加工食品の原料として需要が高まったのですが、今回の地震で作付けが減少して、収穫量が半減する事となったようです、地震の影響は特産品の栽培にも影響があり、とても深刻でした。ちなみにハスカップをお菓子ではなく、塩漬けにしたのを食べましたが、梅干しを爽やかにしたような味で美味しかったです。

このように一日かけて、石狩から厚真の視察に行きましたが、厚真の現状は復興が全く進んでなく、被害が甚大だったという事がわかりました。今回の災害で厚真町では、行政で家が全壊なのか半壊なのか判定する人が足りなく、設計事務所に手伝ってもらったとの話をしました。建築士会でもその後の住民の住宅に関する相談会を開くなど、出来る事があるなら見つけフォロー出来れば良いのではないかと思います。今回は今まで知らなかった厚真がわかり、とても有意義な視察会となりました。

新入会員紹介 ようこそ建築士会へ

一緒に楽しんで、学んで、
そして発信しましょう!

6月号で好評でした「新入会員紹介」。今回もより多くの皆様に知ってもらうためご紹介します!

よろしくお願ひします

酒井 隆幸 (札幌支部)



■勤務先・仕事内容: 株式会社 unica / 意匠設計・施工 ■入会年月日: 令和元年7月
■建築士会での活動: 札幌支部事業委員会 ■建築士会入会のきっかけ: 会員からのお誘い

自己PR

このたび建築士会に入会いたしました、酒井隆幸と申します。清田区にてひとりで建築事務所をやっております。一人の環境では、新しい情報等に接する機会が少ないため、建築士会に入会いたしました。遅まきながら、これをきっかけに経験や知識を得ながら、

様々な方と交流していきたく思います。

先日、建築士会全国大会「北海道大会」のお手伝いをさせていただき、建築士会の活動や会員同士のつながりを実感いたしました。

最近では子供と出かけるのに夢中で、あまり行けておりませんが、下手の横好きではあります。たま

にゴルフに行くことを楽しみにしています。昨年までは会員ではありませんが、建築士会の親睦コンペには毎年参加しておりました。

これからは、建築士会の活動等に積極的に参加していきたく思いますので、気軽にお声かけください、よろしくお願ひいたします。

建築現場へのあこがれ

赤坂 初音 (旭川支部)



■勤務先・仕事内容: (株)廣野組建築事業部/現場管理 ■入会年月日: 平成31年1月1日
■建築士会での活動: 支部事業への参加 ■建築士会入会のきっかけ: 上司の勧め

自己PR

私が建築に興味を持ったのは、小学生のころ住宅のリフォームをするテレビ番組を見たことが始まりです。その後、特に建築に関わることなく地元の高専に進学し、プログラミングやCADを学びました。就職活動を始めるにあたって、自分の好きな建築の仕事に就こうと考え、株式会社 廣野組に入社を決めました。建築に関しては全くの素人でしたが、内勤でCAD図面を作成するような仕事なら出来るのではないかと

おりました。しかし、入社前に実際の工事現場を見学した際、普段は見られない建物の根本(基礎部分)を見て、建物ってどうやって組み上がるんだらう?と、興味が湧き、現場職員として働きたい旨を伝えました。

入社後は、資格の早期取得のため建築学科のある通信制大学に進学を志願し、会社に支援していただきながら通学しました。大学では建築デザインを学び、高専で学んだ3DCAD技術を生かして卒業設計を作製しました。目指すは幅

広い知識を持った現場代理人です。険しい道のりですが、建築士会には同じ道の先輩がたくさんいらっしゃるほか、多種多様な立場の方とお会いする機会がありますので、たくさんお話を伺って、知見を深めていきたくと思います。また、近年は女性の現場職員の増加が見受けられ、建築士会においても私と同じような仕事をしている女性が増えてくると思います。ゆくゆくは「女性ならではの」のアドバイスができるよう、精進していきたくと思います。

これからの目標

安田 琢朗 (十勝支部)



■勤務先・仕事内容: 安田建築設計事務所/意匠設計 ■入会年月日: 平成30年12月
■建築士会での活動: 青年委員会 ■建築士会入会のきっかけ: 会員からのお誘い

自己PR

父と二代で設計事務所を営んでいる安田琢朗と申します。

日常の設計業務の中では他の建築士の方と触れ合う機会が少なく、普段出会えないような人たちの考え方や知見に触れたいと思い、建築士会に入会しました。

現在、建築士会では熱心な先輩たちが、さまざまな問題に取り組もうとしています。

これまでいくつかの行事に参加してきましたが、たくさんの人が集まって何かを頑張ることは本当に面白く、やりがいを感じます。

これからの建築士会の活動にも積極的に参加していきたくと思っています。

話は変わって、ふとしたきっかけで1年ほど前から、常に(家の中でも)ちょっと大きめのカメラを持つようにしています。

常にカメラが手元にあると、被写体を探す癖ができて、無意識にあたりを配ることが増えました。

そんな癖のせいか、普段は気づかないような小さな変化にも気づくようになったり、これまで目もくれなかったものをまじまじと観

察するきっかけになったりと、カメラを持つことで少しものの見方が変わってきたことを実感します。

一方で、今の時代はスマホやインターネットの発展のせいか、「目の前にあるもの」への興味が減ってきているように感じます。

そんな時代ですが、私は自分の目で実際に見て、自分が感じたことを大事にしていきたくと思っています。

ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

木材を外装材に用いた防火構造外壁の開発

— 断熱先進地 北海道から火災に強い木造外壁の提案 —

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 建築研究本部 糸毛 治

〈北方建築総合研究所建築研究部建築システムグループ 主査（建築技術）
兼務 建築性能試験センター安全性能評価試験課 主査（防耐火）〉

1. はじめに

外装材に木材を張って仕上げることは、魅力ある建築デザインの1つとして根強い人気があります（写真1）。近年、地域資源である道産木材の建築物への利用が推進される中、道内の建築事業者等から、外装材に道産木材を使いたいという要望が多く寄せられます。

しかし、木材を外装材として木造建築物の外壁に用いる場合、建築基準法により、建設場所や用途、規模に応じて、外壁を防火構造等とすることが求められます。そのため、外装材に木材を使いたくても、使える条件が大きく制限されるのが実情です。この制限を受けないようにするためには、防火構造外壁等、大臣認定を取得しなくてはなりません。

一方、北海道では、近年、高い断熱性を実現するため、戸建住宅等をはじめ木造建築物（木造軸組工法、枠組壁工法）では、充填断熱材の外側に断熱材を付加した付加断熱外壁が広く採用されています。付加断熱外壁では、設置される断熱材が厚くなり、壁厚も厚くなるため、この特徴をうまく生かせば、高い防火性能を実現できます。

そこで、北方建築総合研究所では、重点研究「道産資材を用いた木造高断熱外壁の防耐火構造外壁の開発」（平成29年度～31年度）を実施してきました。

この研究成果として、外装材に木材を用いて付加断熱外壁を対象に、「防火構造」大臣認定の取得が可能な外壁を開発しましたので報告いたします。



写真1 外装材に木材を用いた住宅

2. 防耐火構造の大臣認定の仕組みと仕様調査

まずは、本研究において、開発のターゲットとなる防火構造を含む防耐火構造^{注1)}の大臣認定について説明いたします。

大臣認定の性能評価は、図1に示す通り、大臣認定を取得したい仕様範囲から、防火上最も不利な仕様を試験体仕様として選定した上で、防耐火試験に合格すれば、申請範囲を認定範囲として大臣認定が取得できる仕組みです。そのため、大臣認定では、内外装材や断熱材の種類や厚さから、施工時に留付ける釘やビスの長さまで、認定対象となる仕様範囲をこと細かに定めなくてはなりません。さらに、その仕様範囲を、現場で用いられる可能性があるバリエーションをすべて包括し、漏れがないように定める必要があります。

本研究では、開発に取り組む前に、道内の建築事業者ヒアリングや図面調査等を行い、外壁の層構成から細かい施工手順まで把握して、開発すべき外壁の仕様範囲を明らかにしました。その際、事業者の方から、付加断熱材にグラスウール断熱材だけではなく、発泡プラスチック断熱材も使いたい等の要望をいただき、これらも開発する外壁の仕様に反映しております。

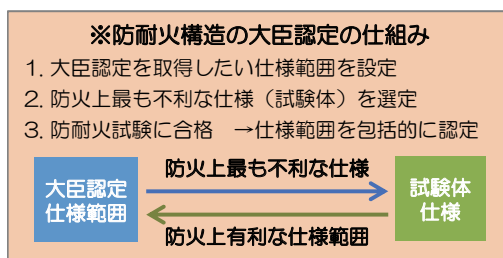


図1 防耐火構造の大臣認定の仕組み

3. 防火構造外壁における要求性能と性能検証

今回、対象とする付加断熱外壁のように、鉛直荷重を支える防火構造外壁の防火性能には、屋外側から30分間の火災による加熱に対し、遮炎性、遮熱性、非損傷性の3つを保持し続けることが求められます。

遮炎性は、火炎が外壁を貫通しないこと、遮熱性は外壁越しに可燃物に着火して燃え移るような熱を通さないこと、非損傷性は外壁が荷重支持能力を失わないことをそれぞれ指します。

本研究では、外壁の層構成を変えて、防火性能を確認するにあたり、(地独)北海道立総合研究機構建築研究本部の壁炉を用いて、性能評価機関の業務方法書に基づき、防耐火実験を実施しました。

具体的には、柱に長期許容応力度に相当する応力度が生じる荷重が集中してかかるように載荷し、遮炎性、遮熱性、非損傷性のいずれかが失われたと判断されるまで、ISO834加熱曲線(図2)に沿って加熱を行いました。

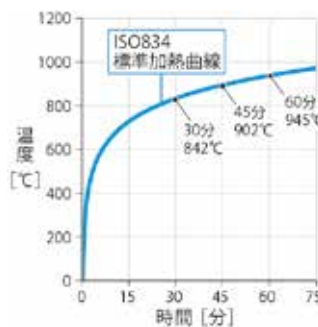


図2 ISO834加熱曲線

4. 開発した付加断熱外壁について

本研究では、道内の建築事業者に広く使っていたため、付加断熱材の種類ごとに、①グラスウール仕様、②ポリスチレンフォーム仕様、③フェノールフォーム仕様の3種類の付加断熱外壁について、認定に向けた仕様範囲を決定し、防耐火試験により

防火性能を確認して、開発を行いました。

研究では、木造軸組工法および枠組壁工法の両方の外壁の開発に取り組みましたが、ここでは、現時点で「防火構造」の大臣認定取得の目途が立っている木造軸組工法の付加断熱外壁について紹介します。

本研究で開発した付加断熱外壁の仕様を図3に、防耐火試験の結果を図4に、防耐火試験の様子を写真2にそれぞれ示します。開発した3種類の付加断熱外壁は、いずれも防火構造として、十分な防火性能を持つことを確認しております(図4)。以下、開発した付加断熱外壁における主要部材の仕様について紹介いたします。

1) 外装材

外装材に用いる木材は、厚さ15mm以上、幅100mm以上とし、樹種による制限はなく、道産カラマツやトドマツ、道南スギなど、自由に使用いただけます。木材の張り方は、縦張り、横張りどちらも可能で、木材小口の形状は、突付け、実付き、相じゃくりを選択できます。また目透かしも入れたり、大和張りや下見板張り等もできたり、様々なデザインに対応できます。

2) 付加断熱材

①グラスウール仕様は、密度16K以上かつ厚さ50mm以上とし、幅30mm以上の棧木を縦張りまたは横張りした上で、棧木間に断熱材を設置します。またグラスウール断熱材の代わりに、ロックウール断熱材を使うこともできます。

②ポリスチレンフォーム仕様および③フェノールフォーム仕様は、厚さ20mm以上とし、外張断熱用専用ビスで、通気胴縁とあわせて留め付けます。また



試験前

試験時

脱炉時

写真2 防耐火試験の様子

②ポリスチレンフォーム仕様では、押出法ポリスチレンフォーム、ビーズ法ポリスチレンフォームどちらも使うことができます。

3) 構造用面材

構造用面材は、厚さ9mm以上とし、OSBや合板等の木質系ボード、せっこうボードやセメント板、火山性ガラス質複合板等、様々な面材をお使いいただけます。

4) 充填断熱材

充填断熱材は、密度16K以上かつ厚さ100mm以上のグラスウール断熱材とします。またロックウール断熱材も使うことができます。

5) 内装材

内装材は、厚さ12.5mm以上のせっこうボードまたは強化せっこうボードとします。

5. 今後の予定

開発した3種類の付加断熱外壁は、現在、「防火構造」の大臣認定の取得に向け、技術移転先とともに、それぞれ性能評価を受験するための作業を進めています。来年9月頃には、すべての大臣認定が揃い、皆様に使っていただける見込みです。

参考文献 1) 地方独立行政法人北海道立総合研究機構：防耐火性能試験・評価業務方法書，2017.3

注 注1) 本研究で開発した「防火構造」に加え、準耐火構造、耐火構造等を総称して、「防耐火構造」と称す。

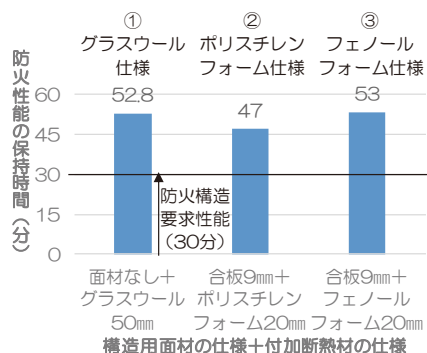
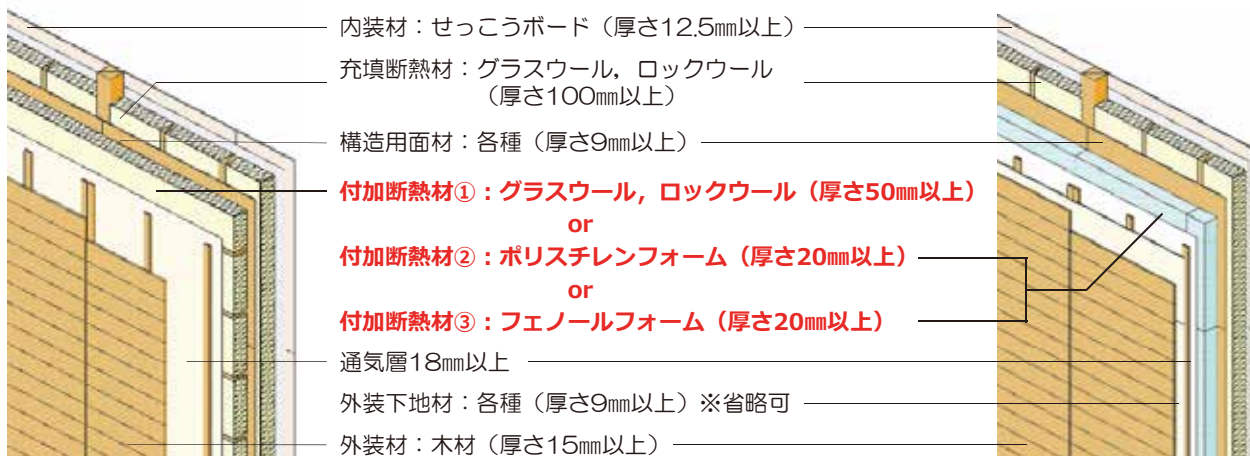


図4 開発した付加断熱外壁の防耐火試験結果



①グラスウール仕様
(ロックウールも使用可)

②ポリスチレンフォーム仕様
③フェノールフォーム仕様

図3 本研究で開発した「防火構造」の大臣認定の取得が可能な付加断熱外壁(3種類)

青年委員会

青年委員長としての2年間を振り返って

青年委員長

朝倉 友和 (函館支部)



いつも青年委員会の活動にご理解とご協力賜り有難う御座います。昨年1月に青年委員長の重責を担うこととなりました。

就任当初は、前年の青年委員会の予算と活動計画どおりに活動しなくてはならないため、自分の考えていることが出来ず四苦八苦しておりました。何のために建築士会があり、青年委員会として何をすべきなのか。当会の存在意義を改めて考えてみました。仕事の合間を縫って活動するからには相応のメリットを得られなければならない。会員の皆さんに魅力を感じてもらえるような活動をしたいというのが私の思いでした。

一 全道青年連絡会議

会員の負担は最小限、魅力を最大限にすべきである。テーマを『建築士にとってより良いを目指す』に定め、まずは1年目の連絡会議で会員の知識向上を狙い、新技術の講義をした。2年目の今年は札幌支部の林委員に構造の講義をしてもらい、その後みんなで木組みを作り、手で地震を起こしどの班が一番強いかを競い合い、楽しみながら学びました。

毎年の全国大会の青年セッションで行っている地域実践活動報告について。北海道では支部単位で発表をし、代表を選出しておりました。しかし、他ブロックは都府県単位での活動ですので規模や予算などがまるで違う。そこで北海道単位の発表が出来ないかと考え、青年建築士の集いin厚真町での災害ボランティア活動を発表することにしました。今後、北海道としての発表のあり方を考える良いきっかけになったのではないかと思います。

一 青年建築士の集い

前述の活動報告の代表の選出は毎年集いにて行っていた。今年もそれでいいという考え方もあったが、

何も考えず過去の延長をしていては成長しないのではと考えた。そこで、昨年の北海道胆振東部地震で甚大な被害があった厚真町にて災害ボランティア活動することに決めた。私も恥ずかしながら災害ボランティア活動の経験が無かったが、みんなの力で成し遂げることが出来た。急に新しいことをして戸惑わせたかもしれませんが、この活動がみんなにとってプラスになっていたら嬉しく思います。

一 建築士の日のお仕事体験イベント

例年サンピアザにて2日間開催されていましたが、今年では会員の負担を考え、思い切って1日限りの開催としました。1日にしたことで、人手不足の解消につながり『マイはし作り』コーナーも新たに取り入れることが出来ました。

このような取り組みで、自分が就任当初に抱いていた『青年委員会に所属するメリット』『会員の負担減』が少しですが形にできたのではないかと思います。会員の増強は各支部共通の課題であります。まずは現会員のみみんなに建築士会の魅力を感じてもらうことが大事だと考えています。自分が良いと感じられないものを人に勧められないのは当然です。代表者が出席し、他のメンバーに伝達すればいいという方針の支部もありますが、この仲間とともに何かを成し遂げる達成感や喜び、実際に体験して得られるものはその場にはないと感じ取れません。出席できるメンバーがどうしても同じ顔ぶれになってしまう、青年と言いつつ高齢化が進んでいます(笑)。今の青年委員会は新しい風が吹き込むことを必要としていますので、どこの支部も会員減で予算の問題は必ずあると思いますが、どうか青年建築士の活動にさらなるご理解とご協力を頂きたいと思っています。

結びに、青年委員会担当の針ヶ谷常務理事、事務局の岡本さんには数々の貴重な助言を頂き有難う御座いました。今後も本部青年委員会を支援して頂ければ幸いです。また、本部青年委員の10名のみならず、楽しくここまで出来た事、そして支えて頂いた事に感謝しています。来期青年委員長にこの思いを託し、残り2カ月最後まで責任を持って青年委員長の任期を終えたいと思います。



青年委員会メンバー



連絡会議 (木組作成)



集い (マイ箸作り完成)



集い (決起会)



集い (棚の取付)



連絡会議 (懇親会)



集い (最後の集合写真)

北空知支部 我が支部の様子

副支部長兼事務局長
井原 淳



北空知支部は、深川市、妹背牛町、秩父別町、沼田町、北竜町、雨竜町、幌加内町の1市6町で構成された65名の建築士たちの集まりです。昨年、創立60周年を無事迎えることが出来ました。

さて、我が支部の特徴の一つとして、6町の役場建築職員の存在が挙げられます。ボランティア精神のもと、各町の代表として支部理事の役職を担い、会議や事業の

開催時には遠方より全員が参加してくれています。このことは、広範囲な地域と地域の連携や交流を深める上で欠かせない大切な存在であり感謝しているところです。

続いて、支部の事業については、消防署員を招いてのAED救命講習会や応急危険度判定講習会、近隣市町の施設見学会、ビールパーティ等を開催しており、今年3月に開催した施設見学会では、会員の約4割が参加し、深川市内の「民間保育園」、秩父別町の「子ども屋内遊技場」、沼田町の「安心暮らしのセンター」の3施設を見学し、その後、沼田町内の焼肉店で

懇親を深め楽しい時間を過ごしました。また、8月に開催したビールパーティでは「建築士と仲間のつどい」と題し300人余りが集まり、その抽選会では、当支部を応援していただいている賛助会員様をはじめ、多くの企業様から合計100本以上の賞品の提供を頂き、毎年楽しみにしておられる方も多く、評判の高い事業となっています。

我が支部は、小さな組織であり会員の減少など心配は尽きませんが、今後も建築士の皆さんに必要とされる、そして地域との結びつきを大切にできる組織を目指したいと思っております。

桧山支部 つくろう、建てよう in ひやま

支部長
佐藤 久



桧山支部では、北海道桧山振興局産業振興部建設指導課及び林務課、江差町、北海道建築士事務所協会桧山支部の人たちと、9月29日(日)開催の江差町「産業まつり」でえさし海の駅「開陽丸」広場にて、住宅相談、木造戸建ての住宅耐震相談を行いました。そのほか、水風船のヨーヨー釣り、道南スギの活用事例、展示、道南スギを使用したラックを作る木工体験コーナー等盛り沢山のメニューでした。特にラックを作るところでは多くの体験希望者が集まり、お父

さんやお母さんと一緒の子どもたちは初めて手にする電動工具を使い、ビスのねじ込むときの発音にビックリしながら徐々に慣れて、最後は完成したラックに仕上げのサンドペーパーをかけ、木の香りや滑らかになった木の面に手を添えて、満足そうな表情を見るところとも言えないほほましいものです。ここで体験された子供たちの何人かはこれから江差小学校(6年生対象)での景観ワークショップ(H22~)、江差高等学校(1年生対象)の出前講座と住教育の限られた機会ではありますが、将来の建築に携わる道につながればと思います。

10月に入ると6日(日)上ノ国町、13日(日)には、せたな町での

「木工体験コーナー」を設け、同様に取組む予定です。

また、江差高等学校での出前講座やヘリテージマネージャー「フォローアップ in 江差」も予定しています。出来る限りの社会貢献ですね。



道南スギのラック作り指導

次代を担うアスファルト防水

無釜型アスファルト防水熱工法 バンクス BANKS工法

(一財)日本建築センターの建設技術審査証明書(建築技術) (BCJ-審査証明-175) 取得



- 公共建築工事標準仕様 A(I)-1、D(I)-1と同等以上の性能確保
- 基準耐用年数25年(露出仕様)
- 高耐久・長寿命化によるランニングコスト低減
- 臭い・煙の少ない本格派アスファルト防水
- 専用転圧工具による下地接着性の確保
- 易溶解性アスファルト使用による安定した冬季施工性
- 飛び火認定 高断熱仕様(t=225まで)の対応 (DR-1887-2)
- 各種防水下地に対応可能



バンクス
BANKS工法 30秒動画



東西アスファルト事業協同組合

〒060-0042 札幌市中央区大通西6-2-6 三井生命札幌大通ビル3階 田島ルーフィング(株)内

Tel 011-221-4014 Fax 011-222-3627

技術協力メーカー: TAJIMA 田島ルーフィング株式会社

表彰関係 〈受賞おめでとうございます〉

9月21日開催の第62回建築士会全国大会（北海道大会）の式典において、日本建築士会連合会会長表彰6名、伝統的技能者表彰1名の表彰式が執り行われ賞状が授与されました。永年にわたり、会の発展に貢献して下さった表彰者のみなさまをご紹介します。

【(公社)日本建築士会連合会 会長表彰者】(敬称略)

支部名	氏名	支部名	氏名	支部名	氏名	支部名	氏名	支部名	氏名	支部名	氏名
札幌	池田 浩司	札幌	内海 純一	恵庭	成田 茂利	函館	三木 紀一	苫小牧	大槻 泰夫	十勝	成田 齊

【(公社)日本建築士会連合会 伝統的技能者表彰者】(敬称略)

支部名	氏名
函館	渡邊 正博

道士会の動き

道本部の主な会議報告 (10月)

- ◆第2回BIM推進特別委員会
〈開催日〉10月15日(火)
〈議題〉1) BIMの事例紹介
- ◆第2回被災地応急支援特別委員会
〈開催日〉10月26日(土)
〈議題〉1) 令和元年事業計画

道本部の主な行事予定 (11月)

- 9日(土) 第3回青年委員会
- 12日(火) 第3回BIM推進特別委員会
- 16日(土) 第14回全国大会実行委員会
- 21日(木) 第3回事業委員会
- 23日(土) 第3回女性委員会・第2回まちづくり委員会
- 30日(土) 第2回情報委員会

関係機関等会議参加予定 (11月)

- 18日(月) 建築CPD運営会議(東京) 高野会長出席

講習会のご案内 (11月)

「総合図作成ガイドライン」解説講習会

29日(金) 札幌市

監理技術者講習

20日(水) 札幌市 21日(木) 函館市

応急危険度判定士認定講習会

6日(水) 函館市 11日(月) 中標津町・室蘭市 19日(火) 帯広市
20日(水) 網走市 21日(木) 留萌市 27日(水) 旭川市・江差町
28日(木) 岩見沢市 29日(金) 新ひだか町

建築士定期講習

6日(水) 旭川市 13日(水) 札幌市・帯広市 14日(木) 室蘭市

編集後記

令和初めての建築士会全国大会が9月21日函館市で開催され、情報委員会は全道大会同様に号外発行を行ないました。編集作業は全道大会とあまり変わりませんが、取材対象のセッションが全道大会の倍であったり、発行部数も約4倍の規模であったため、取材人数が足りず情報委員会のOBを頼んだり、高速印刷機2台を会場に持ち込んで印刷したりと、いつもの全道大会と勝手が違っていました、なんとか発行できました。

全国大会に参加できなかった会員の皆様におかれましては、全国大会号外を北海道建築士会のホームページで公開しておりますので閲覧していただければ幸いです。

情報委員会 熊谷 智(苫小牧支部)

CPD認定プログラム(10月認定)

- ◆北海道建築士会震災建築物応急危険度判定士認定講習会・机上訓練
〈日程及び会場〉11月16日(土) 14:30~17:00 旭川市勤労福祉会館(旭川市)
〈単位数〉2単位
- ◆防災セミナー「胆振東部地震のその後(1年経過して)」
〈日程及び会場〉12月7日(土) 13:00~16:00 かねてる27(札幌市)
〈単位数〉2単位
〈問合せ先〉(一社)北海道建築士会 TEL 011-251-6076
- ◆畳セミナー
〈日程及び会場〉11月21日(木) 19:00~20:35 カナモトホール(札幌市)
〈単位数〉1単位
〈問合せ先〉(一社)北海道建築士会札幌支部 TEL 011-232-1843



会誌「北海道建築士」 CPD単位登録のご案内

CPD自習型認定研修の設問は、下記の手順でCPD単位登録を行ってください。

- ①CPD情報システムにログインをします。
- ②士会用メニューより「認定教材研修申請」を押します。
- ③CPD番号、氏名を確認し、必要欄を入力します。
- ④プルダウンメニューから「北海道建築士」を選択します。
- ⑤設問への解答を選択します。
- ⑥入力後、「次へ」を押します。
- ⑦確認画面より「申請する」を押し、完了です。

注) 不正解の場合は登録できません。

CPD 自習型認定研修の設問

P4-P5 技術ノート

(木材を外装材に用いた防火構造外壁の開発)

北海道建築士 No.267

2019/11/1 単位: 1

設問 防火構造外壁の防火性能について、不適切なものはどれか。

- 防火構造外壁の防火性能とは、屋外側から30分間の火災による加熱に対する防火性能をいう。
- 防火性能には、遮炎性、防煙性、非損傷性の3つがあり、これらを保持し続けることが求められる。
- 防火性能を確認する耐火試験では、ISO834加熱曲線に沿った加熱を行う。

※不正解の場合は、単位に登録できない場合があります。

情報委員会委員長/斎藤 勝哉
副委員長/早川 陽子・森 勝利・前田 繁
委員/熊谷 智・柏倉 晶憲
村山 賢司・片岡 哲二

北海道建築士 No.267号

印刷 令和元年10月/発行 令和元年11月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会
〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地
大五ビル
電話 (011) 251-6076番
URL <http://www.h-ab.com/>

印刷 株式会社 正文舎
〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目
電話 (011) 811-7151番